

中国の
僧たちの
生活

禅寺への入門（掛搭）

小川 太龍

禅僧が禅寺に入門すること、また入門し
て留まることを「掛搭」といいます。掛も
搭も共に「かける」の意があり、「僧堂（禅
僧が坐禅を組み寝起きする建物・禅堂）の
鈎（かぎ）に、生活用品を入れた袋（衣鉢袋）を掛
ける」ことによる（『禅林象器箋』巻九、等）
というように説明されます。

それでは、中国の雲水（行脚僧）たちの
掛搭について、十四世紀の禅門の軌範書で
ある『勅修百丈清規』をもとに見てみま
しょう。

まず、掛搭を願う雲水は旦過寮に入り、

荷を下ろします。次に、知客とよばれる賓
客の接待役の僧に挨拶し、その後に住持
（住職）に掛搭を願います。そして維那（堂
司・悦衆）という僧堂の責任者で修行を統
括する僧の確認を経て、晴れて僧堂に入り
ます。

もう少し詳しく見てみましょう。旦過寮
とは、客僧が一時的に休む部屋や建物であ
り（『洞霄図志』巻二）、三日間の投宿が許
され、客僧は丁寧な扱われたとのことだ
（『禅苑清規』巻八）。掛搭を願う雲水たち
は、そこで身なりを整え、経験豊富な雲水

から代表者（参頭）を選びます。そして、彼を先頭にして知客に、「暫し到った者が相見に参りました（暫到相看）」と声をかけ、挨拶をします。知客はそれに対して、「遠路のご来訪をこうむり、誠にありがたいことです（山門多幸にして特に遠臨を荷う）」と応じます。その後、住職の下へ行き掛搭を願います。その口上は、「生死事大、無常迅速」（注）でございます。私たちは長らく和尚様のご高名を耳にしており、ご指導いただきたく参りました。どうかお慈悲をもって掛搭をお許してください（某等、生死事大、無常迅速、久しく道風を聞き特に来りて依附せんとす。伏して望むらくは慈悲もて収録せよ）」というものです。その願いを住職が許せば、秘書である侍者のところに行き、名簿に記名します。そし

て、侍者から連絡を受けた維那は彼らを呼び、そこで僧侶の証明書である度牒を確認し、共に修行することを喜ぶ言葉をかけます。最後に係の者が大声で、「雲水の皆さま、僧堂へ行き掛搭ください！（請う衆首座、帰堂掛搭せよ）」と述べ、それにより雲水たちは僧堂に入り本尊に礼拝し、修行生活がはじまるのです。

ただし、このような掛搭の作法や口上は一樣ではなく、他山の住職や和尚が掛搭を願うこともあり、その場合は異なりました。また、それは時代によっても変化しました。たとえば、最古の清規である『禅苑清規』（十二世紀）は、住職への挨拶は僧堂に入った後、つまり掛搭してから行うことが記されています。さらに、今見た『勅修百丈清規』は、「今時の行脚僧の多く

は且過寮に入らず、同郷の僧の部屋を訪ねて宿泊している」とも述べています。

なお、現代日本臨済禅の道場では、掛搭に際して、「庭詰」と「且過詰」という願心の点検が行われています。庭詰は、玄関の式台で低頭して入門を願う続けるもので、且過詰は、且過寮で坐禅を組み続けるというものです。前者を二日、後者を三日とする道場が多いようです。

このように、禅寺への掛搭は、時代や場所により相違があります。しかし、中国の禅僧たちが掛搭を願う際に述べた、「生死事大、無常迅速」という言葉は、現代日本



木版（花園大学、禅堂）

臨済禅の道場では、時報に用いる木版にしたためられています。時空を超えてその精神は共有されているともいえるでしょう。

今回、耳慣れない職名がいくつか出てきました。今回は禅寺を運営するさまざまな役割について確認しましょう。

〔注〕 生死は人生の大問題である。

この世は無常で、あつという間に一生は過ぎてしまふ。

小川 太龍（おがわ たいりゅう）

一九七八年兵庫県生まれ。花園大学大学院博士課程単位取得、博士（文学）。専門は中国禅思想史・禅宗史。明石市常楽寺副住職・花園大学文学部准教授・同、国際禅学研究所兼任研究員。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄨ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8034 京都市右京区花園木辻北町1
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第74巻 第6号(通巻第874号)
令和6年6月1日発行(毎月1日発行)
定価60円

【発行人】野口善敬

【編集人】箱崎善法

【印刷人】古崎良一

【発行所】京都市右京区花園木辻北町1
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400
電話／075-463-3121

表紙の絵

あじさい
「紫陽花」



水をたっぷりと含んだ空が
花に溶け混んでゆく

絵・元場 葵(もとば あおい)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,620円(税・送料込)です。
下記の電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。